

平成23年度 パートナー全体交流会

恒例の平成23年度パートナー全体交流会が2月25日(土)にセンター多目的ホールにて開催されました(参加者30名)。我々パートナーは日頃各グループ内で活動していますが、全体交流会はそのグループを超えて交流を深める目的で毎年パートナー企画部会とセンターとの共催で行っています。

全体交流会は内外講師による講演、昼食会そして各グループによる活動紹介というプログラムで行っています。

今年度は午前中初めにセンター広瀬湖沼環境研究室長による「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画第6期(案)」の紹介がありました。霞ヶ浦と深いかかわりのあるパートナーとして知っておかなければならない、また少しでも協力すべき事でもあります。

その後に「海の魚のにおい」について講演がありました。パートナーである新関博士(農学)が京大の研究室、海洋生物生産利用学分野にて約10年前に研究したもので、海の魚の臭いだけではなく淡水魚も一部含めた形で講演してもらいました。パートナーの中にはいろいろな分野でのスペシャリストがいたのもしい限りです。

魚の主な臭いのもとであるトリメチルアミンの発生メカニズムをわかりやすく説明していただき大変参考になりました。今後この研究成果がいつか実用化に生かせればと期待しています。新関さんは、今回の発表の為に資料及び内容を皆さんにできるだけわかりやすいように何度も手直ししてくださいました。大変お疲れ様でした。

昼食は、毎年恒例となったセンター名物の豚汁と市民・行政の協働事業である霞ヶ浦水辺ふれあい事業で子供たちが田植えして収穫したお米の一部を試食しながら皆で歓談しました。

午後の部は各パートナーグループの紹介ですが、各グループが今年度の活動状況を発表致しました。発表はパートナーグループ(研修グループ、植物グループ、魚グループ、イベント・記録グループ、図書グループ)と企画部会です。日頃、他グループの活動についてはあまり情報が入らないので、お互いの活動を参考にさせていただきました。

企画部会としてはパートナー全体交流会をお互いの交流を深める場そしてパートナー活動をしていくのに役立たせる為に内外講師による講演にも重視しています。今年度もアンケートを取っていますのでこれをふまえてより充実したパートナー全体交流会としていきたいと考えています。



参加者一同



グループ活動報告



新関パートナーによる講演



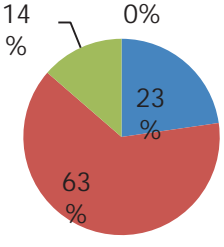
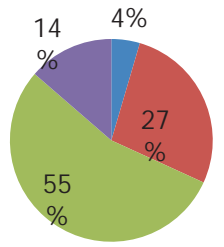
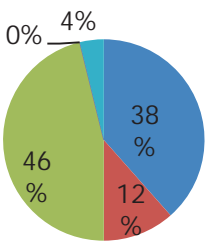
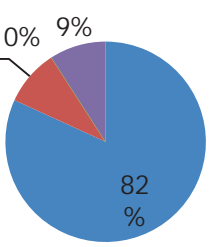
水質保全計画の紹介

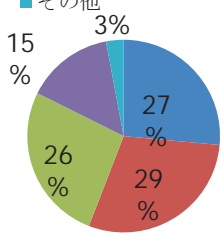
(企画部会：栗原)

H23パートナー全体交流会およびパートナー活動に関するアンケートのまとめ

(当日参加された方々のうち22名から頂いた回答集計です)

1. 全体交流会について

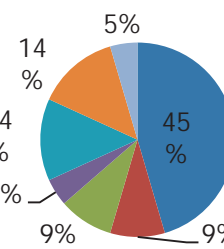
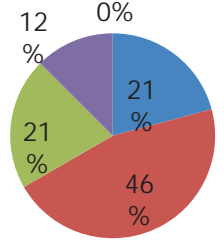
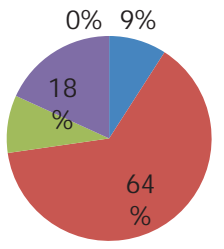
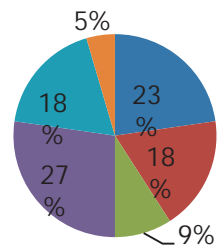
(1) 今回のパートナー全体交流会に参加してみて如何でしたか	(2) 一番良かったプログラムはどれですか (1つのみ)	(3) 全体交流会に参加してどんなことを得ることができましたか (複数可)	(4) 今後とも全体交流会を実施した方が良いと思いますか
<ul style="list-style-type: none"> 非常に良かった 良かった ふつう あまり良くなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦保全計画 各グループ活動紹介 講演会 昼食会 	<ul style="list-style-type: none"> 他Gパートナーとの交流 霞ヶ浦についての知識 他団体の活動について あまり得るものはなかった その他 	<ul style="list-style-type: none"> 実施した方が良い どちらでもよい 実施しない方が良い その他 

(5) 今後の全体研修にどんなプログラムを取り入れてほしいですか (複数可)
<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による講演 霞ヶ浦に関する研修 市民団体活動現場見学 参加者による実技研修 その他 

質問1の参加した結果では“非常に良かった”“良かった”と肯定的に回答した人が全体の86%を占め、質問4では80%以上の方が“今後も実施した方がよい”と回答しており、全体交流会は一定の評価を受け今後も継続して実施して行くことが求められていると思われる。

プログラム内容としては、良かったプログラム(質問2)として“講演会”、“各グループ活動の紹介”が多く、今後取り入れて欲しいプログラム(質問5)として“外部講師による講演”、“霞ヶ浦に関する知識”、“市民団体活動現場見学”が多い。また、質問3の参加して得られたものとしては“他グループパートナーとの交流”“他団体の活動についての知識”を挙げられる方が多い。これらを勘案すれば“パートナー間の交流の場を作る”、講演会等により“他団体活動状況や霞ヶ浦に関する様々な情報に触れられる機会を作る”を中心にプログラムの企画を検討し、今後とも更に充実した全体交流会の継続実施を図ることが必要だと考えられる。課題としては“参加者が少なすぎる”、“センター職員との交流がない”との意見も挙げられており検討する必要がある。

2. パートナー活動について

(1) センターパートナーに登録した年度を教えてください	(2) パートナーに登録しようと思った理由(目的)を教えてください	(3) 実際にパートナー活動を行ってみて、登録時の目的は満たされましたか	(4) 今後のパートナー活動に期待することは何ですか
<ul style="list-style-type: none"> 平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な人と交流する 環境問題に興味があった ボランティア活動に興味 退職後の生きがいを求めて その他 	<ul style="list-style-type: none"> 満たされた ある程度満たされた 新規登録でまだ何とも言えない あまり満たされていない 満たされていない 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内の交流 他グループとの交流 センター職員との交流 自主活動を盛んに 今まで通りで良い その他 

平成23年度 パートナーグループ活動報告【下期】

●企画部会

平成21年5月に、従来のグループ内活動に加え、各グループの連携を強めるために、グループ横断的な活動の企画、実践についてセンターの支援を得ながら始めて約3年になります。

この間、種々の課題はありましたが、企画部会活動は関係者のご協力により1回の休みもなく開催され、各プロジェクトもほぼ予定通り実践することができましたので、平成23年度における主要3テーマの取組み概要を報告します。

(1) 活動情報の発信

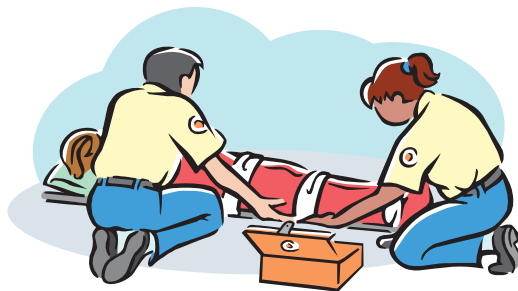
- ①センター夏まつり2011では、昨年同様パートナー活動ブースへの出展を行い、多くの参加者で盛り上がりました。出展内容は、各パートナーグループ活動の紹介と紙粘土細工、グループ活動に関するクイズラリーなどで、喜んで頂きました。平成24年度も継続する予定です。
- ②パートナー情報誌「香澄」の発行により、多くの皆様に活動状況を知って頂けるようになりました。平成24年度は、更なる内容の充実を図り、活動情報を発信して行きたいと思っております。

(2) 研修・交流の充実

- ①センターパートナーとして、幅広い知識の習得を図るためにパートナー霞ヶ浦講座を、センターのご協力を得て5回開催することができ、大変勉強になりました。また、全講座出席者には修了証書を授与させて頂きました。平成24年度は講座内容を変え実施する予定です。
- ②パートナー全体研修・交流会の企画では、2月25日に多数のパートナー参加のもと、我々のパートナー仲間である新関紀文博士（農学）による「海の魚のにおい」についての講演とセンター湖沼環境研究室から「霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画（第6期）の概要」について説明をして頂きました。また、普段なかなか知る機会の少ない各グループの活動紹介も行い、他グループの皆さんとの交流も深めることができました。平成24年度も引き続き実施に向け、企画を検討中です。
- ③センター「いきもののにわ」の企画は、残念ながら平成24年度への繰り越しプロジェクトとなりました。

(3) 他団体との交流

- ①9月にミュージアムパーク茨城県自然博物館の見学と交流を行い、たえず最前線でお客さんと接して活動するボランティアの皆さんの活躍を目の当たりにし、その積極的な活動状況に感動しました。平成24年度も引き続き市民団体との交流を企画しております。
- ②センター交流サロン事業へは昨年同様に企画させて頂き、パートナーとして提案させて頂きました。また、事業計画内容等は、企画部会で報告することで共有化し、更に市民活動団体との交流を深め、パートナー活動に還元したいと思います。



(4) その他の活動

- ①普通救命講習も昨年同様、センター及び神立消防署のご協力で行うことができました。暑い中、救命士の指導のもと参加者一同が大声を張り上げながら真剣に受講し、非常時の対応について貴重な体験をすることができました。
- ②今年度の新規プロジェクトとして、「パートナークリーンUp活動」を実施してきました。4月から毎月1回の頻度で霞ヶ浦湖岸（約2.3km）の清掃を、センターの協力を得ながらパートナー自主活動の一環として実施してきました。平成24年2月まで、延べ回収量は59袋（可燃：32袋、不燃27袋）延べ参加者53名と多くの方にご協力頂き、限られた範囲ですが湖岸も少し綺麗になったように思います。平成24年度も引き続き実施する予定です。

新年度は、新規プロジェクトもあり、更に意義ある、楽しい企画に行きたいと思っておりますので、皆様のご参加をお待ちしています。

(企画部会会長：尾形)

●研修グループ

研修グループの主な活動は**研修室、霞ヶ浦出前講座での講師補助業務**と自主活動「川の水を覗いて見よう Part 2!」,それにこれらの進捗状況や結果、意見交換を図るための4半期毎の定例会の開催であります。環境学習の講師補助業務ではのべ145団体6,864名、霞ヶ浦出前講座では76団体4,994名、の大半への講師補助です(準備を含む)。パートナーの参加状況は研修室では1回に2名~6名で平均3,4名位、出前講座では1回に2,3名です。内容は研修室、出前とも霞ヶ浦湖水、持ち込まれた河川・沼の水、水道水の準公定法による水質分析と顕微鏡でのプランクトン観察です。研修室での学習後、引率された方々へのアンケート調査によれば「スタッフの説明や対応は的確だと思いますか」の質問に98.4%の方が「とても思う」「そう思う」と肯定的に回答されました。パートナーとしてとてもうれしく、やりがいを感じる限りです。



次に自主活動ですが「川の水を覗いて見よう Part 2!」をテーマに安全 マニュアルと水質分析方法の勉強会を5回、河川水を採水しての水質分析を2回実施しました(7月、11月、1月の3回予定でしたが7月は台風のため中止)。内容は西浦、北浦流入河川のうち桜川、恋瀬川、巴川など9河川と霞ヶ浦大橋の10地点で採水、水温、PH、透明度等すぐ計測しないと誤差を生じるものは採水現場で計測・分析し、COD、リン、窒素などは研修室で分担して準公定法による水質分析を行いました。

この活動の進捗状況はまだ道半ばで、ステップ1の(1)分析方法を熟知する(2)分析精度の向上をはかる(3)器具の洗浄方法を習得し、次の分析に対応する、の段階です。平成24年度にはステップ1をクリアし、ステップ2の各河川のデータを集積し水質状況の傾向をつかむ、まで進みたいものです。

(研修グループリーダー：浅野)

●図書グループ

図書グループのメンバーは総勢19名で、毎週金曜日を活動日とし、交流サロンが利用可能な日に活動を行ないました。

(1) 文献資料室の蔵書の紹介(全員)

四半期ごとにテーマを設定して蔵書を紹介する方法を取り入れる予定でしたが、参加者が限られ、各自のテーマにて蔵書紹介をしてきました。今期(H23年4月~H24年1月まで)は25件の紹介文を作成しました。その紹介文は順次交流サロンに掲示されています。さらに多数の参加をえられるように進めたいと思います。

(2) 霞ヶ浦Q&Aの作成(全員)

「文献資料室蔵書利用の効果を高める」目的で、少しでも利用者に利用しやすいように資料室の蔵書から「Q&A」を作成しました。今期は30件作成しました。まだ完成していませんが、新年度に向け完成し、更に充実したものに仕上げていくこととします。

(3) アクリルタワシ作製指導への協力(全員)

交流サロン主催で定期的で開催されるアクリルタワシ教室(1回/月)やセンターイベント開催時にアクリルタワシの作成指導への協力を行ないました。

(4) 「テーマ別新聞切り抜き綴り」の作成(希望者5名)

新聞記事のテーマを絞ってとり進めています。作業量が多く、作業工程にやや遅れが生じました。終了次第、順次情報として提示していきたいと思います。作業工程の設定とテーマの範囲を再検討し、今後継続したいと思います。

(5) 読み聞かせ(希望者5名)

センター恒例行事参加と、月1回(第4土曜日)の頻度で絵本や紙芝居を利用した読み聞かせを行いました。開催時間・集客方法などの検討がさらに必要と思っております。



読み聞かせの活動風景



おすすめの本紹介



図書グループの活動風景
(図書グループリーダー：山中)

●植物グループ

植物グループのパートナー活動は、センター主催の「野外講座」における運営補助と、“パートナーの自主的な学習活動”として毎月1回定期的に行われる「植物定点観察」の2つの環境学習推進活動です。

野外講座は主として流入河川を含む霞ヶ浦流域の植物観察や水環境施設・史跡等の見学・学習を通して霞ヶ浦の水質浄化に関心を深めてもらう目的で実施されています。4月13日の“水郷県民の森”での春の植物観察を皮切りに10回(4月～翌年1月の各月1回)行われました。春には新聞社の同行取材が、12月にはIBSの現地同時生中継(香澄25号参照)もありました。野外講座でパートナーはそれぞれ「説明補助」、「写真」、「記録」、「安全・ゴミ」の作業を分担して一般参加者に対応しました。



定点観察は土浦市田村・沖宿湖岸で「AB区」、「EF区」、「GH区」の3班に分かれてジョウロウスゲ(絶滅危惧Ⅱ類)、ヤナギトラノオ(県絶滅種)、ノウルシ(準絶滅危惧種)など貴重な植物を年間通して、またドクゼリ(日本三大毒草)など花や実、冬芽など特徴のある植物についても適時に観察・記録し、その生態写真に説明を付けてセンター展示室に掲示しました。その中から四季毎に本誌に「活動の抄録」を掲載し霞ヶ浦の植物情報を共有しました。また、植物グループパートナーのスキルUpを図るため、今年度は筑波実験植物園での実地研修、「シダ植物の分類」技能研修を行うと共に、データ整理を進め「霞ヶ浦湖岸のヤナギ属」「霞ヶ浦周辺のハハコグサ属」等の資料を作成して野外講座や定点観察で活用しました。

これらのデータや資料は今後も関連する環境団体や来館者との交流に活用し霞ヶ浦の環境学習推進に貢献したいと考えています。

(植物グループ リーダー 有吉)

●魚グループ

今年度も引き続き自然観察会と魚の定点調査およびセンターのイベントの補助の活動を行った。自然観察会は9回行われ、パートナーの参加人数は表の通りである。4月の魚の観察会はパートナーの数が多かったが、5月以降は4人前後が担当した。

5月は桜川で川魚の観察会を開催する予定であったが、増水のためセンターで魚の話となった。これで2年続けて桜川の観察会は中止となった。8月の溪流生物の観察会は初めての試みであったが、真夏に溪流での観察会は涼しく、サワガニがたくさん取れて、参加者はみんな満足していたようだった。また、午後は福田先生の指導により周辺の雑木林で植物観察も行った。

11月の鮭の観察はあいにくの雨模様であったが、五行川では遡上しているサケがたくさん見られてみんなで感激をした。2月はワカサギのふ化作業の見学の予定であったが、ワカサギの成長が遅れて作業が延期されたことから、ワカサギの話とボラとチカの解剖を行った。

魚の定点調査では、パートナーの人数が10人と多い時もあったが、平均すれば6人位となる。できれば、特に夏から秋にかけては魚がたくさん捕れるので、パートナーが7人は欲しい。

センターのイベント補助は5月のこども環境フェスティバルが中止となったので、8月の夏まつりと2月の環境学習フェスタの2回となった。8月は投網教室を開催し、投網と魚釣りゲームを5人のパートナーが担当した。投網の参加者が多く、また魚釣りゲームも人気があり、結構忙しい一日だったので、できればパートナーがもう1人は欲しい。2月の環境学習フェスタは、昨年は外で投網教室行ったが、今年は魚大研究と題して、魚の形態の観察と解剖を行い、5人のパートナーが担当した。解剖は2月の自然観察会が予行演習となったので、スムーズに事が運び、参加者にも満足してもらえたものと思っている。

自然観察会	4月	5月	7月	8月	9月
内容	川尻川河口での魚の観察	魚の話	昆虫の観察	筑波山の溪流の生物	浮島での投網体験
パートナー参加人数	11人	5人	3人	6人	3人

自然観察会	10月	11月	1月	2月
内容	メダカの観察	鮭の遡上とふ化場の見学	水鳥の観察	ワカサギの話と魚の解剖
パートナー参加人数	3人	3人	3人	4人

定点調査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
パートナー参加人数	6人	10人	6人	8人	5人	4人	4人	7人	5人	4人	5人

(魚グループリーダー：腰塚)

●イベント・記録グループ

当グループはセンター行事関係の補助活動と当グループ主体で活動している自主活動に分けられます。補助活動はセンター夏まつり、こども環境フェスティバル、泳げる霞ヶ浦市民フェスティバル、霞ヶ浦水辺ふれあい事業、霞ヶ浦水質浄化ポスターコンクール表彰式、霞ヶ浦入門講座等があり、一方自主活動はウォーキングマップ（沖宿コース）の作成、パソコン教室、環境写真展示会があります。下記に今年度の自主活動状況を紹介いたします。

(1) ウォーキングマップ（沖宿コース）の作成（4月完成）

昨年は戸崎コースのマップを作成し、今年度は沖宿コースを作成しました。センターから約5 Km（約1.5 H）

と手ごろな距離で、コースは歴史コースと湖岸コースの2通りあります。

別途ウォーキングイベントを開催する予定です。

歴史コース：鷲神社→鹿島神社→海蔵寺を回るコースです。

湖岸コース：海蔵寺→沖宿堀之内館→湖岸を回るコースです。

(2) パソコン教室（7月実施）

日頃パートナー活動やプライベートにてパソコンを利用することが多いと思います。使い方がイマイチ不便で、もっと良い方法があるのでは思う人がいると思います。そこで皆でお互いに教えあうという形式のパソコン教室を開催しました。各自の質問に対してはすべて理解してもらえましたが、何回か繰り返す事で自分のものになると思います。今後も機会があれば開催する予定です。

(3) 環境写真撮影会（8月実施）、展示会（10月実施）

昨年度までは毎年恒例の環境写真展示会を開催してきましたが、今回は撮影会も行いました。撮影テーマは「蓮田」として沖宿の蓮田へ行き、蓮の花、葉、茎、そして蓮田の風景を見てそこで何を感じるか、人それぞれが感じたままを写真に表現してもらいました。作品は10月に約2週間展示しましたが、来館者の方もかなり関心をもって見られている方がいました。来年度もテーマを検討し継続して実施していきます。

（イベントグループリーダー：栗原）

パートナー霞ヶ浦クリーンUp活動報告

平成23年度の新規プロジェクトとして、「パートナー霞ヶ浦クリーンUp活動」を企画・実施しましたので報告します。

活動の主旨は、環境保全の観点からパートナーが関わる霞ヶ浦の浄化啓発活動の一環として、霞ヶ浦湖岸の清掃活動をセンターの支援を得ながらの自主活動と位置づけ、地域や社会に見える形で貢献できればと考え企画、実践してきました。活動は、地道に継続的に推進し、我々の貴重な自然の財産を美しく、きれいに将来へと引継いで行きたいと思います

活動内容は、センター下の霞ヶ浦湖岸2.3 km区間の清掃（ゴミ拾い）を4月から毎月1回の頻度で、参加したパートナーで回収から仕分けまでを行います。できるだけ参加しやすいように、平日と土曜日を交互に設定する等の工夫をし、9時から12時まで汗をかきながら実施してきました。

具体的には、センターから湖岸までを約15分かけて歩き、湖岸で2班に分かれ、清掃活動を開始します。

回収ゴミはセンター職員の協力で軽トラックに積みセンターまで運んで貰い可燃物、不燃物の仕分けを行います。夏季活動は、湖岸に辿り着くまでに大汗をかいてしまい、持参した飲料水も半減する程でした。また、冬季活動は霞ヶ浦からの冷たい風に身を切られ、鼻水を垂らしながらも頑張ってきました。

最初は、清掃区域の多種多様なゴミの多さに驚きましたが、回を重ねる毎に少しずつ減ってゆくゴミの量にモチベーションも上がり、ゴミ“ゼロ”を目指し、それぞれの老体をいたわりつつ、無理なく活動しております。

当初、計画では12回（3月まで）の予定でしたが、2月現在、雨で中止の3回を除き8回の実施をしてきました。

これまでの活動実績としましては、延べ回収量59袋（可燃物：32袋、不燃物：27袋）、延べ参加人員53名と、多くのパートナーの皆さんのご協力を頂きました。

今回の自主活動が、少しでも霞ヶ浦のクリーンUpに貢献できてれば幸いです。以上、ご参加頂いた皆様を代表して報告させて頂きます。なお、この活動に賛同頂いたセンター及び担当職員の皆様にあらためて感謝致します。平成24年度も継続して活動する事が決まりましたので、ゴミ“ゼロ”を目指し頑張りたいと思います。引続き関係各位の皆様方のご協力を宜しくお願い致します。

（企画部会：尾形）

平成23年度パートナー霞ヶ浦講座について

パートナー企画部会ではパートナーとして活動する際に、必要となる霞ヶ浦に関する知識を習得することで、センター利用者に対してよりよいサービスを提供できるようにする為に「パートナー霞ヶ浦講座」を毎年開催しています。センターの研究室で環境関連の研究をされているのは知っていますが、実際にどのような研究をされているのかよくわからないという事から、我々パートナー活動に少しでも役立つと思われる下記テーマを講義していただきました。

1) 霞ヶ浦の水質、調査研究、2) 霞ヶ浦の有機物(有機炭素)の挙動の解明に関する研究、3) 流域からの流入負荷に関する調査研究(循環かんがい及び休耕田を利用した水質浄化による負荷削減効果)、4-1) 脱窒現象の解明、4-2) 北浦におけるりんの低減化に関する研究、5) 植物プランクトンに影響を及ぼす環境因子に関する研究。講義は7月から2月に5回行われ、毎回平均17名が出席しています。また全講義に出席された方8名には井上副センター長より修了証書が渡されました。

アンケート結果(5段階評価、5は最良)

1) 自分の目的は達成されたか:平均4(ほぼ達成された)、2) 学習会の内容が理解出来ましたか:平均4(思う)、3) 講師の内容は的確でしたか:平均4(思う)。全体的に見ても平均4以上であり目的は十分達成されたと思います。また受講した事については次のような意見もありました。①研究室の見学をしたかった。②同じ講義でも内容が専門的すぎる。一方ではわかりやすかったという人もいました。③水質改善の難しさを感じた。④知らなかった事がわかり勉強になった。⑤今後もこのような講座を続けてほしい。

第3回講義の開始時間変更連絡が徹底されていなくて現地説明に数名参加できなかった事、第5回講義で資料が不足していた為にせっかくの説明がわかりづらかった。この件については次回徹底致します。

これらを参考にしてパートナー全体のスキルアップに努め、今後もより充実したパートナー講座にしていきたいと思えます。



(企画部会:栗原)

環境学習フェスタを開催しました

去る2月18日(土)に「霞ヶ浦環境科学センター環境学習フェスタ」を開催しました。前日夜には降雪がありましたが、天候は回復し、1,000名の方にご来場いただきました。



この催事は、平成22年度から始まり今回で2回目となります。主な内容はセンターの環境学習プログラムに参加した児童生徒による「環境学習発表会」を主催事とし、併せて「おもしろ科学教室」、「アクリルタワシ教室」や「プランクトン観察教室」などの各種体験型イベントを実施しました。

また、「さかな大研究」、「いきもののにわ観察」などの新たなイベントも開催し、どのブースも大変盛況でありました。

さらに、環境学習発表会においては、パートナー感謝状贈呈式も行われ、3名のパートナーにセンター長から感謝状が贈呈されました。

当日は28名のパートナーの皆様のご協力をいただき、盛況のうちに終えることができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

(センター:高橋)

平成23年度冬季 植物グループ「湖岸植物 定点観察」パートナー活動の抄録

(文責：植物Gリーダー 有吉)

《H23年12月 観察の概況》 観察日：2011-12-21(水)

冬を迎えた湖岸では、枯れたヨシやオギが冬特有の景観を作り、残ったカラスウリやスズメウリの実が目立つ。スイカズラは葉を丸めた冬葉で、水中のサンショウモは葉裏に孢子嚢果を付け、冬超えしの準備態勢に入っている。

AB 区



スイカズラ 半落葉つる性木本
別名：ニンドウ(忍冬)。春に芳香のある花を付け、秋に黒く熟す。

EF 区



スズメウリ ウリ科 つる性1年草
カラスウリに比べると葉も実も小さく繊細。鈴なりの白い実が目立つ。

GH 区



セイタカヨシ イネ科 多年草
茎は越年し、節からよく分岐する。葉は垂れ下がらない。生育北限。

《H24年1月 観察の概況》 観察日：2012-1-25(水)

大寒の霞ヶ浦湖畔はヤナギ類やエノキ、ムクノキ等の木々は殆ど落葉し、ヨシやオギ、クズも枯れて見通しが良くなると、ゴミの散乱が目立ってきた。霞ヶ浦浄化推進の上で、このゴミ対策も大きな課題である。



オギ イネ科ススキ属 多年草
ススキに似ているが芒がなく根茎を縦横に伸ばして群生し株は作らない。



タチヤナギ ヤナギ科 落葉樹
まだ冬芽に動きはない。枝にモズがケラを刺して行った(モズのはやにえ)。



クズ マメ科 つる性多年草
豆果は金色の毛で覆われる。近年北米に帰化、蔓延して問題となる。

《H24年2月 観察の概況》 観察日：2011-2-22(水)

寒さも峠を越えた湖岸では、枯れたヨシやセイタカアワダチソウの茎が目立つが、カワヤナギの蕾が顔を出し始めた。枯葉の下ではヤエムグラやオヤブジラミが越冬葉を広げ、ヨモギの若芽も開きだした。



センニンソウ キンポウゲ科つる性多年草。
茎の下部は木化し、一部の葉と共に枯れずに冬を越す。有毒。



カワヤナギ(雄花) ヤナギ科落葉樹
雄雌異種。赤い芽鱗が落ちて蕾が顔を出した。雌花も芽鱗が開き始めた。



ヨモギ キク科 多年草
別名：モチグサ。若葉は香りがよく、美味しそうな草餅が作れそう。

第2回国際刻字芸術大展に参加して（その2） 2011年10月7日 開幕式



正面 左側



廈門美術館 正面 玄関



正面 右側

第二回国際刻字芸術大展賽のセレモニーが午前10時より開催され最後にテープカットで展示場内に入りました。



開会式セレモニー

各自、自由に作品を鑑賞しました。まずは自分の作品がどこに展示されているか確認すべく早足でスタートしました。幸いすぐ見つかりまして写真を1枚。

午後は廈門観博苑において、記念植樹が行われました。再びこの地を訪ねるときには是非成長の程を確認したいと思います。

夜は昨夜と同じくホテルのレストランで祝賀会が執り行われました。テーブル席はおなじく中国人4名、日本人4名、韓国人2名の計10名です。お互い言葉が通じませんのでコミュニケーションは図れませんが乾杯だけは呼吸が合いました。



テープカット



「十年一覺」十年かかって一つのことを学ぶ
(小生の作品)



記念植樹式場



記念植樹

5月21日金環日食！

いよいよ金環日食が近づいてきました！（茨城で見られると知った小学生のころは、まだまだ遠い未来のことでした）非常に珍しい天文現象ですので、各地でイベントや特集が組まれると思います。今回は、日本の広い範囲で見られるので、たくさんの方が、空を見上げることでしょ。

金環日食とは、簡単に解説すると、月の見かけの大きさが、太陽よりも小さく、太陽の内側へ入り込んだ状態です。皆既とは違い、太陽は、細いリング状となって見えます。

ただ、観測対象が太陽・・・とても危険が伴います。皆既日食とは違い、金環日食中でも、強烈な光が降り注ぐこととなります。

日食中は、絶対に肉眼で見てはいけません。日食によって生じる網膜障害「日食網膜症」になってしまうこともあり、失明の恐れもあります。観測の場合は十分に気をつけたいところです。

やってはいけないこと 

肉眼で直接太陽を見る（数秒でも危険） 望遠鏡や双眼鏡を使う 下敷きやCDを使う
フィルムの切れ端を使う すずをつけたガラス板を使う サングラスやゴーグルを使う
日食グラスを使って望遠鏡や双眼鏡を覗く（まぶしく感じなくても、網膜が焼けてしま
います）

観測方法としては、何通りかありますが、簡単な楽しみ方としては、木漏れ日を見るのも楽しみの一つです。葉の間を通った光が太陽の形になります。どうしても直接見たいときは、専用の日食グラスを使用するのがよいかもしれません。製品によっては、1、2分が限度のものもあります。太陽の光は、目に有害なので、とにかく注意が必要です。

マスコミが騒ぐと外れる…天文界のジンクスです（笑）梅雨の走り…お天気が気になるところです。

めったに見られない現象を、安全に楽しむために、準備万端にして、5月21日を迎えたいと思います。（小さなお子さんが見る場合には、細心の注意を払ってくださいね！）

（文献資料室 土肥）

「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動の様子や、趣味など何でも結構です。写真も大歓迎です。原稿はパートナー室のメールボックスに投函していただくか、編集委員にお渡しください。

（パートナー情報誌「香澄」編集部会）

★デジタルカメラ入門（その6）は紙面の都合上次号に掲載します。ご了承ください。

【編集後記】地区内全域へ「愛犬家の皆様へ」というタイトルの回覧板をまわしました。通学路に散乱する犬の糞に子供たちから「この道は犬の便所ようだ！」と揶揄されたのがきっかけです。市役所の環境保全課に相談すると、“きれいなまちづくり条例”が昨年からは施行されており、3万円の罰則規定まであるそうです。さっそくその内容を加味し、愛犬家の自覚を促す回覧板をまわしました。効果はすぐ現れました。少なくとも通学路周辺はきれいになり、シャベルとビニール袋を持って散歩する人も見かけるようになりました。農道の周りはまだですが、これからはいろいろな手法を提案してみたいと考えています。（H）